

図書館員のひみつの本棚 第202回

今月は、ちっちゃなボタンたちが個性豊かなボタン人生を語る愉快なお話を紹介します。

『お皿のボタン』

たかどの ほうこ／作・絵 偕成社 2007年 ¥1,296(税別)

< お勧め年齢 >

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★★★ 小高学年★★☆ 中学生★☆☆

高校★☆☆ 一般★☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

< 本の紹介 >

高橋家の飾り棚の上にある、平たいお花のような1枚の白いお皿。そこでは、取れたボタンたち(中にはボタンでないものも混じていましたけどね。)がにぎやかに暮らしています。小さなふち飾りのついた高級ボタンのホワイト夫人、碇の浮き彫り模様のある金ボタンの船長、大きくなるみボタンのうぐいすばあさんや、なぞの黒岩ジョー……。そんな個性豊かなボタンたちが語る、なぞとロマンと冒険うずまくボタン人生のお話です。

< 子どもに手渡す時のポイント >

皆さんの家の片隅にも、取れたボタンなどを入れた小瓶や缶が置いてあったりしませんか？なかには、どこで拾ったのか分からないボタンが紛れていたり…。そんな身近なボタンたちが、奇想天外で愉快な身の上話を語り合います。『まあちゃんのながいかみ』や『へんてこもりにいこうよ』シリーズ等でおなじみの、たかどのほうこさんの作品と言えば、関心を示す子もいるのではないでしょうか。一話一話が短いので、子どもたちの朝読の時間にも最適です。

『北海道新聞』連載のお話をまとめたもので、「もとが新聞ということもあり、子供の人と大人の人、両方に向けて書きました。」という作者の言葉通り、子どもたちよりちよっぴり人生経験豊富な大人の方にも楽しんでいただけること請け合いです。ちっちゃなボタンたちのでっかいロマンあふれる味わい深いボタン人生、もしかすると私にも意外や意外の新しい第二の人生が待っているかも？なんて想像してみたくなるかもしれませんよ。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。